



283
40



始



IT 5K 14

18

浦和高等學校一覽

第一年度

自大正十一年
至大正十二年

283-40

浦和高等學校一覽

目次

自大正十一年
至同十二年

第一 沿革

第二 學年曆

第三 高等學校ニ關スル法令

- 一 高等學校令
- 二 高等學校規程
- 三 文部省直轄諸學校官制
- 四 文部省直轄諸學校職員定員令
- 五 文部省直轄學校長職務規程
- 六 高等學校教員規程
- 七 帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校雇外國人使用ニ關スル規定
- 八 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程



一 三 六 〇 四 二 七 二 八 二 九 四 二 四 二

目次

九	高等學校高等科入學資格試驗規程	四五
十	文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル規程	四七
十一	文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學科專門部若ハ學校ニ入學出願者ノ入學スヘキ學校	四七
十二	文部省直轄諸學校外國人特別入學規程	四八
十三	臺灣朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程ヲ準用	四九
十四	高等學校高等科學力檢定規程	五〇
十五	學生生徒兒童身體檢査規程	五二
十六	學生生徒兒童身體檢査規程上ノ發育概評決定標準	五七
十七	行幸啓ノ節學生生徒敬禮方	五九
第四學則		
第一章	學科課程及教授時數	六一
第二章	學年、學期及休業日	六六
第三章	入學、在學及退學	六七
第四章	成績考査、修了及卒業	七三

第五章	懲戒	七七
第六章	授業料	七八
第七章	制服	七九
第八章	寄宿寮	八三
第九章	圖書	八五
第五 生徒心得		
第六 細則		
一 學則施行細則		
第一章	隨意科目及選擇科目	八八
第二章	入學、在學及休學	八九
第三章	編制	九三
第四章	成績考査	九三
第五章	授業料及寄宿料	九五
第六章	制服	九六

第七章	習學寮	九八
第八章	通學	一〇一
第九章	圖書	一〇二
二	生徒心得細則	一〇五
三	職員服務規程	一〇八
四	校務分掌規程	一一五
五	組監督規程	一二四
六	會議規程	一二五
七	成績考查內規	一二六
第七	職員	一三三
第八	生徒	一三九
一	生徒氏名	一三九
二	生徒本籍府縣別	一四七
三	生徒年齡別	一五〇

四	入學者學歷別	一五一
第九	敷地及建物	一五三

附錄

一	浦和高等學校學友會規則	一五五
二	寮生規約	一六五

浦和高等學校一覽

第一 沿革略

大正七年政府ニ於テ高等諸學校創設及擴張ノ計畫ヲ樹ツルヤ埼玉縣下ニモ亦一高等學校ヲ創設スルニ決シ其ノ位置ヲ浦和町ニ定ム埼玉縣敷地二萬餘坪ヲ寄附ス沿革ノ大要左ノ如シ

大正十年

十一月 勅令第四百三十二號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ニ改正ヲ加ヘ本校ヲ創設セラル△勅令第四百三十三號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令ニ改正ヲ加ヘ本校職員ノ定員ヲ校長一人、教授九人、書記四人ト定メラル△第五高等學校校長兼第五高等學校教授吉岡郷甫本校長ニ任セラル△事務所ヲ文部省内ニ置ク

大正十一年

一月 事務所ヲ本校舎内ニ移ス
 三月 學則及諸細則ヲ制定ス△本館ノ新築成ル
 四月 生徒二百人ノ入學ヲ許可ス△勅令第二百四號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中ニ改令ヲ加ヘ本校教授ノ定員ヲ十六人ト定メラル
 五月 寄宿寮半部ノ新築成ル生徒百十一名ヲ收容ス

第二 學年曆

大正十一年

四月一日(土) 第一學期始
 四月十日(月) 春期休業終
 四月十一日(火) 第一學期授業始
 四月十二日(水) 入學式
 七月三日(月) 第一學期授業終
 七月四日(火) 自習
 七月五日(水) 第一學期試驗始
 七月十日(月) 第一學期試驗終
 七月十一日(火) 夏期休業始
 八月三十一日(木) 夏期休業終

九月一日(金) 第二學期授業始
 十月十七日(火) 神嘗祭
 十月三十一日(火) 天長節祝日拜賀式
 十一月八日(水) 創立記念日祝賀式
 十一月二十三日(木) 新嘗祭
 十二月十六日(土) 第二學期授業終
 十二月十八日(月) 自習
 十二月十九日(火) 第二學期試驗始
 十二月二十三日(土) 第二學期試驗終
 十二月二十五日(月) 冬期休業始
 大正十二年
 一月一日(月) 第三學期始 拜賀式
 一月七日(日) 冬期休業終

一月八日(月) 第三學期授業始
 二月十一日(日) 紀元節拜賀式
 三月五日(月) 自習
 三月六日(火) 第三學期試驗始
 三月十日(土) 第三學期試驗終

第三 高等學校ニ關スル法令

一 高等學校令(大正七年勅令第三百八十九號)

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ
特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣ト
ス

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ
因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設
立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル
資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本

財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下ル
コトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大
臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス
高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス
第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲メニ專攻科ヲ置クコ
トヲ得其ノ修業年限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得
專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制ス

ヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料、入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス
第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ、檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

二 高等學校規程抄(大正八年
文部省令第八號)

第一章 學科課程及教科書

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學體操トス
高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス
修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家社會家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハス

ノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス
國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ
上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文
學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ
理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟
セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表
ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス
外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發
達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニ
シ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス
歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現状ヲ知ラシムルヲ以テ要
旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘ
シ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セ
シムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛練セシ
ムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授ク
ヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確
ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要

ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス
法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス
體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス
各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節、祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス
高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文

部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數並專任教員及兼任教員ノ割合ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章 設備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表

簿ヲ備フヘシ

一 學則、日課表及教科用圖書配當表

二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵

猶豫ニ關スル書類

四 試驗ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算、決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具標本模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
- 二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
- 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- 五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者

ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格検査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限り入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一

年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限り試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試驗ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得
第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加

フルコトヲ得

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項

三 文部省直轄諸學校官制 (抄)

(明治二十六年勅令第八十六號、明治二十九年第二百二十六號ヨリ大正十一年第四百一十一號マテ屢次改正)

第一條 文部省直轄學校ハ左ノ如シ

東京高等師範學校、廣島高等師範學校、東京女子高等師範學校、奈良女

子高等師範學校、盛岡高等農林學校、鹿兒島高等農林學校、上田蠶絲專門學校、東京高等蠶絲學校、京都高等蠶業學校、鳥取高等農業學校、三重高等農林學校、神戸高等商業學校、長崎高等商業學校、山口高等商業學校、小樽高等商業學校、名古屋高等商業學校、福島高等商業學校、大分高等商業學校、第一高等學校、第二高等學校、第三高等學校、第四高等學校、第五高等學校、第六高等學校、第七高等學校、造士館、第八高等學校、新潟高等學校、松本高等學校、山口高等學校、松山高等學校、水戸高等學校、山形高等學校、佐賀高等學校、弘前高等學校、松江高等學校、東京高等學校、大阪高等學校、浦和高等學校、福岡高等學校、千葉醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、富山藥學專門學校、東京高等工業學校、大阪高等工業學校、京都高等工藝學校、名古屋高等工業學校、熊本高等工業學校、米澤高等工業學校、桐生高等工業學校、橫濱高等工業學校、廣島高等工業學校、金澤高等工業學校、仙臺高等工業學校、明治專門學校

東京高等工藝學校、神戸高等工業學校、秋田鑛山專門學校、神戸高等商船學校、東京外國語學校、大阪外國語學校、東京美術學校、東京音樂學校、東京盲學校、東京聾啞學校

第六條 文部省直轄學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒監

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ受ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

四 文部省直轄諸學校職員定員令 (抄)

(明治三十五年勅令第九十九號、明治三十六年第五十六號ヨリ大正十一年第二百四號マテ屢次改正)

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

浦和高等學校	一	校長	十六人	授助教授	一	書記	四人
--------	---	----	-----	------	---	----	----

五 文部省直轄諸學校長職務規程

(大正二年文部省訓令號外、大正八年、九年號外ヲ以テ改正)

- 第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ
- 第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

- 第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト
- 第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト
- 第四 教官以下内國各地出張ニ關スルコト
- 第五 教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト
- 第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト
- 第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト
- 第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外交部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

六 高等學校教員規程

(大正八年文部省令第十號、八年第四十號ヨリ十七年第三十九號マテ屢數次改正)

- 第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規程ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト見做ス文部省外國留學生規程ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ

第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ效力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身 國語 漢文 英語 佛語 獨語 日本史及東洋史 西洋史 地理 哲學概説 心理及論理 法制及經濟 數學 物理 化學 植物 動物 地質及礦物 圖畫

前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ檢定ヲ受ケントスル學科目ニ併セ本人ノ選擇ニ依

リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受験者出願ノ學科目ノ試驗ニ附隨シ其ノ教授法ヲ試驗スルモノトス

第七條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限及試驗ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日及試験ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添へ試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテ

ハ住居地ノ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

- 一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫
- 二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコト

ヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 學位ヲ有スル者
- 二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者
- 三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二年ノモノヲ除ク

四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

五 高等學校、大學豫科又ハ學習院高等學科及元高等學科ヲ卒業

シタル者

六 當該學科目ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者

七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業

證書ヲ有スル者

九 五年以上大學、大學豫科、高等學校、專門學校又ハ之ニ準スヘキ

學校ノ教員タリシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 第九條第二號、第二號及第九號ニ該當スル者、高等師範學校專攻科又ハ東京高等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者及本邦ニ於テ高等學校若シハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校

ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第十一條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス
公立及私立ノ高等學校ニ於テ專攻科教員ヲ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規定ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前項ノ規定ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限リ第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教員タリシ者ハ高等科
教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス
第一號書式(用紙美濃紙)

高等學校高等科教員檢定願

本籍

現住所

受験資格

族籍

印 入
印 紙

氏 名

年 月 日 生

學 科 目

第五條第二項ノ選擇外國語

私儀高等學校高等科教員志願ニ付前記學科目ノ試験(無試験)檢定相受

度此段相願候也

年 月 日

右

氏 名 印

文部大臣宛

(記載注意)

- 一 族稱ハ華士族ニ限リ記載スヘシ
- 二 受験資格ハ最主要ノ事項ノミヲ記載スヘシ
- 三 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式(用紙美濃紙)

履 歷 書

氏 名

年 月 日 生

學 業

一年 月 日 何學校何科第何學年ニ入學年月日卒業

一年 月 日 何教員免許狀受領

業 務

一年 月 日 何官職拜命若ハ何業ニ從事年月日何事由ニ依リ

退職若ハ廢業

賞 罰

一年 月 日 何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項

一年 月 日 何事由ニ依リ何ト改氏名等

以 上

年 月 日

右

氏

名

印

(記載注意)

一 學業ハ受験資格ニ關係アル事項ニ限り記載スヘシ

二 教員免許狀ハ別紙ニ其ノ寫ヲ添付スヘシ

三 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限り記載スヘシ

四 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限り記載スヘシ

五 身上ニ關スル事項ハ族稱氏名等ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記

スヘシ

第三號書式

證 明 書

本 籍

氏

名

年 月 日 生

右ハ年月日本學校館所何部科第何學年ニ入學シ年月日同部科ヲ卒業セシ者(試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者ナルコトヲ證明

ス

年 月 日

何學校、館、所長 氏

名 印

第四號書式(用紙美濃紙)

身體檢查書

現住所

氏

名

年 月 日 生

- 一 體 格
- 一 身 長
- 一 體 重
- 一 胸 圍
- 一 中心視力

色盲

眼病

一 聽 力

耳疾

一 呼 吸 器

一 神 經 系

一 皮 膚

一 言 語

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

年 月 日 檢 査

現住所

醫師 氏

名 印

(記載注意)

検査ノ表記及身長體重胸圍聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒及幼兒身體検査規程ニ準據スヘシ

七 帝國大學官立大學及文部省直轄諸學校雇外國人使

用ニ關スル規定 (明治二十六年勅令第五十六號、大正九年第七十四號ヲ以テ改正)

帝國大學官立大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長官立大學長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

八 官立高等學校高等科入學者選抜試験規程

(大正八年文部省令第十四號、大正十年第四十五號ヲ以テ改正)

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルト

キハ選抜試験ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選抜試験ニ關スル細目及出願ノ手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選抜試験ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其一ヲ選ハシム

前項ノ試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選抜試験ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
 理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
 理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
 理科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
 選拔試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類ニ箇以上同一科内ノ類ニ限ルヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類又ハ理科丙類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

- 一 各高等學校ニ於テ各科毎ニ其ノ科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試験ノ成績順ニ依リ選出ス
- 二 前號ノ場合ニ於テ試験成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル

三 前二號ニ依リ選出セル人員ニ就キ試験ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス

四 前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス

五 本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス
 前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコトヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

九 高等學校高等科入學資格試験規程 (大正八年文部省令第九號)

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試験ヲ

受ケントスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試験ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試験ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試験ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試験ニ付試験手数料ヲ徴收スルコトヲ得

十 文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受

ケタル他ノ直轄諸學校入學試験無効ニ關スル規定

(明治三十八年文部省令第十八號)

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

十一 文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學科專門部若

ハ學校ニ入學出願者ノ入學スヘキ學校

(明治四十三年文部省告示第二百十三號、明治四十五年第五百五十四號ヲ以テ改正)

同一人ニシテ東京帝國大學農科大學農學實科、同林學實科、同獸醫學實科、東北帝國大學農科大學豫科、同附設農學實科、同附設土木工學科、同附設林學科、同附設水產學科、東北帝國大學附屬專門醫學部、同附屬工學專門部並文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學科專門部若ハ學校ニ入學

ヲ出願シタル者ハ其ノ最前ニ入學ヲ許可セラレタル學科專門部若ハ學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二箇以上ノ學科專門部若ハ學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學科專門部若ハ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

十二 文部省直轄學校外國人特別入學規程 (明治三十四年文部省令第十五號)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキ

ハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

(大正十年五月九日發專六六號ヲ以テ高等學校等へ入學無資格ノ外國人ニ入學資格ニ相當スル試験ヲ行ヒ成績優良ナル合格者ハ正科生トシテ入學セシメ差支ナキ通牒アリ)

十三 臺灣、朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別

入學規程ヲ準用 (明治四十四年文部省訓令第十六號)

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若クハ朝鮮人ニ之ヲ準

用ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

(明治四十四年十月六日官普一〇四號ヲ以テ朝鮮留學生監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト看做ス通牒アリ) (大正元年十一月十六日發普二三六號ヲ以テ臺灣留學生監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト看做ス通牒アリ)

十四 高等學校高等科學力檢定規程(大正十年 文部省訓令號外)

第一條 高等學校高等科學力檢定試驗ハ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ其ノ入學志願者ノ學力檢定試驗執行ノ通告アリタル場合ニ限リ高等學校ニ於テ施行ス
試驗ハ二月ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 試驗ハ高等學校高等科卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ
高等學校高等科ニ入學スル資格ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校第四學年マテノ必修各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依ル學力檢定試驗ヲ行フヘシ

第三條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第四條 試驗ヲ合格シタル者ニハ左式ノ證明書ヲ交付スヘシ

證明書

族籍

何

某

校印

何年何月生

右ハ當校試験ノ成績ニ依リ高等學校高等科何科ノ卒業ト同等ノ學力アルコトヲ證明ス

年 月 日 某高等學校長位動 氏

番 號 名印

十五 學生生徒兒童身體檢查規程抄(大正九年
文部省令第十六號)

第一條 學生生徒兒童身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得
監督官廳又ハ學校校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ
學校醫ナキ場合若ハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體檢查ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

一發育(身長、體重、胸圍概評) 二榮養 三脊柱 四視力及屈折狀態

五色神 六眼疾 七聽力 八耳疾 九齒牙 十其ノ他ノ疾病及異常 十一監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得
色神檢查ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 檢查ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ分ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ(下略)
- 三 體量ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線

ニ浴ヒ普通呼氣ノ終レル時ヲ測定スヘシ(下略)
五發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲乙丙ノ三分ツモノトス
六榮養ハ甲乙丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其
ノ中間ナルヲ乙トス
七脊柱ハ正左彎右彎前彎後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ
依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱
ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱ト
シ然ラサルモノヲ強トス
八視力ハ萬國式試視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記
入スヘシ裸眼視力一〇以上ナルヲ正視眼トス
屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ
弱視失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ
九色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査スヘシ
十一齒牙ハ齲齒ニ就キ検査スヘシ
十二其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ
殊ニ結核性疾患腺病肋膜炎心臟疾患及機能障礙貧血脚氣傳染性
皮膚病腺樣增殖性及扁桃腺肥大^{ニヤ}神經衰弱精神障礙ニ注
意スヘシ
十三監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生
上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノト
ス
第五條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身
體検査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘ
シ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類
毎ニ別票ヲ用フルモノトス

第一條第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ

他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ

身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ

第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限り文部省直轄學校長及公立大學長ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ報告

スヘシ

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ年七月限り文部大臣ニ報告スヘシ

第九條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

十六 學生生徒兒童身體検査規程上ノ發育概評決定

標準(抄) (大正九年 文部省訓令第九號)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

一、七年ヨリ十八年マテノ男子(中略)ニ在リテハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育標準表ニ照シテ當該年齢ヨリ一年々長ノモノノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セ

スシテ一年々少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス

二十九年以上ノ男子ニアリテハ身長五尺三寸、體重十四貫三百匁、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、七〇以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長五尺一寸八分、體重十三貫匁、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、五一以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

發育概評決定標準表

年 齡	身 長	體 重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
十六年	五・〇四	一一・八六〇	二・三三五
十七年	五・一八	一二・八五〇	二・四四八
十八年	五・二五	一三・五三〇	二・五五八
十九年	五・二九	一四・〇二〇	二・六六五

十七 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

(明治四十三年文部省訓令第十八號明治四十
四年第十一號、大正五年第五號ヲ以テ改正)

一 武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ劍ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車カ中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム

御車カ中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ

姿勢ヲ取ラシム御車カ指揮者ノ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム)直レノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セシム
御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

第四 學 則

第一章 學科課程及教授時數

第一條 本校ニ高等科ヲ置ク

第二條 高等科ヲ分チテ文科及理科トシ各修業年限ヲ三箇年トス

第三條 文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ文科ニ在リテハ英語、獨語又ハ佛語トシ理科ニ在リテハ英語、獨語トス

第二外國語ハ第一外國語ヲ英語トシタル場合ニ於テハ獨語トシ第一外國語ヲ獨語又ハ佛語トシタル場合ニ於テハ英語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第四條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二

第一外國語ヲ獨語又ハ佛語トシタル場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	(二九) (三三)	(二九) (三三)	(二八) (三二)
第一外國語	一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三一) (三四)	(三一) (三四)	(三〇) (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科

目ニ配當スルコトアルヘシ

第五條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		四	二	
第一外國語		八	六	六
第二外國語		(四)	(四)	(四)
數學		四	四	(二)四
物理學			三	講義 二 三 實驗 二 三
化學			三	講義 二 三 實驗 二 三
植物及動物學		二	二	講義 二 二 實驗 二 二

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
鑛物及地質		二		
心理			二	
法制及經濟		二		
圖畫		二	二	(二)
體操		三	三	三
計		(三二)二八	(三二)二八	(三二)二八

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第一外國語ヲ獨語トシタル場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一〇	九	九

第二外國語

計	(三)	(三)	(三)
	三〇	三一	三一
	(三三)	(三四)	(三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトアルヘシ

第二章 學年、學期及休業日

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條 休業日ハ左ノ如シ

- 一 日曜日
- 一 夏期休業 七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

秋季皇靈祭

秋分日

神嘗祭

十月十七日

天長節祝日

十月三十一日

創立記念日

十一月八日

新嘗祭

十一月二十三日

冬期休業

十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

紀元節

二月十一日

春期休業

三月十一日ヨリ四月十日ニ至ル

第三章 入學、在學及退學

第九條 入學ノ期ハ學年ノ始トス

第十條 各科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正ノ男子ニシテ左ノ

各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

二 中學校第四學年ヲ修了シタル者

二 高等學校尋常科ヲ修了シタル者
 三 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
 四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
 六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
 第十一條 入學志望者ノ數募集人員ニ超過シタルトキハ選抜試験ヲ行ヒ入學者ヲ定ム
 第十二條 入學志望者ハ本校ヨリ名票ヲ受取り之ニ所要ノ事項ヲ記入シ寫眞檢定料ヲ添ヘ指定ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ
 第十三條 檢定料ハ金五圓トス
 既納ノ檢定料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス
 第十四條 願ニ依リ退學シタル者退學シタル時ヨリ一箇年以内ニ於

テ再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ同一學年以下ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ但第一學年ニ再入學ヲ願出ツル者ハ此ノ限ニ在ラス
 第十五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金參圓ヲ納付シ且戸籍謄本及履歷書ヲ差出スヘシ
 前項ノ手續ヲ了セサル者ニ對シテハ其ノ入學ノ許可ヲ取消ス
 第十六條 既納ノ入學料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス
 第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ在學中保證ノ責ニ任スヘキ父兄ノ連署ヲ以テ本校所定ノ在學證書ヲ差出スヘシ但本文ニ該當スル父兄ナキトキハ他ノ尊族等ニ就キ之ニ代ルヘキ者ヲ定ムヘシ
 第十八條 保證人ノ住所等ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク届出ツヘシ
 第十九條 保證人死去若クハ他ノ事故ニ由リ其ノ義務ヲ盡ス能ハサ

ルニ至ルトキハ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ第十七條ノ手續ヲナスヘシ

第二十條 疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ニ由リ課業ニ缺席スル者ハ其ノ事由及時日ヲ詳記シ三日以内ニ届出ツヘシ
疾病ノタメニ課業ニ缺席スルコト七日以上ニ及フトキハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十一條 生徒ハ入學後ニ於テ科ヲ變更スルコトヲ得ス但更ニ第十一條ノ選抜試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
科ヲ變更センカタメニ第十一條ノ選抜試験ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二十二條 他學校ノ選抜試験ヲ受ケムトスル者ハ前條第二項ニ準シ手續ヲナスヘシ

第二十三條 己ムヲ得サル事故ニ由リ三箇月以上課業ニ就ク能ハサ

ル見込ノ者ニ對シテハ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

休學セムトスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但疾病ノタメニ休學セントスルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十四條 陸軍又ハ海軍現役ニ服シ若クハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス

第二十五條 休學ハ當該學年間ニ限ル但前條ニ依ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 第二十三條ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始ヨリ課業ニ就クヘシ

第二十四條ニ依リ休學シタル者ハ服役滿期又ハ召集解除後一箇月以内ニ於テ原學年ノ課業ニ就クヘシ

第二十七條 己ムヲ得サル事故ニ由リ退學セムスル者ハ其ノ事由ヲ

詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但疾病ノタメニ退學セムト
スルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス但第二號ノ場
合ニ於テハ第二十四條ニ依リ休學セル期間ヲ算入セス

一 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認めタル者

二 二回引續キ同一學年ニ止マル者

三 引續キ一箇年以上缺席シタル者

四 正當ノ理由ナク又ハ届出ヲナサスシテ引續キ一箇月以上缺席
シタル者

五 出席常ナラサル者

六 一定ノ期日内ニ授業料及寄宿料ヲ納付セサル者

七 第二十二條ノ手續ヲナサスシテ他學校ノ選拔試験ヲ受ケタル
者

第二十九條 退學ニ關シテハ第二十七條ノ外臨機ノ處分ヲナスコト
アルヘシ

第四章 成績考查、修了及卒業

第三十條 學業ノ成績ヲ分チテ學期成績、學年成績及卒業成績トス

學期成績ハ學期毎ニ各學科目ニ就キ試験及平素ノ課業ノ成績ヲ考
査シ且勤惰ヲ參酌シテ之ヲ定ム但學科目ノ種類ニ依リテハ其ノ全
部又ハ一部ノ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ

學年成績ハ各學期成績ノ和ヲ三ヲ以テ除シ之ヲ定ム

卒業成績ハ第一學年成績ノ二倍、第二學年成績ノ三倍及第三學年成
績ノ五倍ノ和ヲ十ヲ以テ除シ之ヲ定ム

第三十一條 學業ノ成績ハ學期成績及學年成績ニ在リテハ科目評點
及平均評點ヲ以テ、卒業成績ニ在リテハ平均評點ヲ以テ之ヲ表示ス
但生徒ニ對シテハ符號又ハ概評ヲ以テ評點ニ代フルモノトス

評點ハ一百ヲ以テ最高トス

第三十二條 某科目ノ試験ニ缺席シタル者ハ其ノ科目ノ試験成績ヲ零トス

第三十三條 疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ニ由リ某科目ノ試験ニ缺席シタリト認めタル者ニ對シテハ前條ニ拘ラス當該學期間ニ於ケル平素ノ課業ノ成績及勤惰ヲ參酌シテ認定評點ヲ付與ス

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ認定評點ヲ付與セス

一 停學ノ處分ヲ受ケタルタメ試験ニ缺席シタル者

二 當該學年ニ於テ某科目ノ試験ニ缺席スルコト二回以上ニ及ブ者

三 試験ニ缺席シタル事由ヲ届出テサル者

四 當該學期ニ於テ某科目ノ教授總時數ノ五分ノ三以上缺席シタル者

ル者

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ第三十三條ニ拘

ラス追試験ヲ許可スルコトアルヘシ

一 第二十四條ニ依リ休學シタルタメニ試験ニ缺席シタル者ニシテ兵役ニ服スルノ前同一學年ノ同一學期ニ於テ教授總時數ノ五分ノ二以上出席シタル者

二 父母祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ丁リ其ノ他非常ノ事情起リタルタメニ試験ニ缺席シタル者ニシテ當該學期ニ於テ教授總時數ノ五分ノ二以上出席シタル者

三 第三十四條第四號ニ該當スル者ニシテ他ノ二學期ノ成績佳良ナル者

第三十六條 學年成績ノ平均評點六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ學年ノ課程ヲ修了シタルモノトス

- 一 科目評點六十未滿ノモノナキ者
- 二 科目評點六十未滿ノモノ一科目アルモ其ノ評點四十以上ナル者
- 三 科目評點六十未滿ノモノ二科目アルモ其ノ評點一ハ五十以上一ハ四十以上ナル者
- 四 科目評點六十未滿ノモノ科目總數ノ三分一以内アルモ何レモ其ノ評點五十以上ナル者
- 第三十七條 當該學年ニ於ケル缺席ノ日數、回數ノ夥多ナル者ハ前條ニ拘ハラス之ヲ原學年ニ止ムルコトアルヘシ
- 第三十八條 當該學年ノ課程ヲ修了セサル者ハ之ヲ原學年ニ止ム
- 第三十九條 原學年ニ止メタル者ニ對シテハ再ヒ原學年ノ各學科目ヲ履修セシム
- 第四十條 全學科ヲ卒業シタル者ニ對シテハ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書ノ様式ハ左ノ通之ヲ定ム

卒業證

道府縣族

何

某

何年何月生

校印

本校所定ノ高等科文理科ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年月日

浦和高等學校長位勳學位爵氏名印

番號

第五章 懲戒

第四十一條 校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戾スル者ハ之ヲ懲戒ス

第四十二條 懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭停學及放校トス

戒飭ハ訓誨ヲ加ヘテ將來ヲ戒メ停學ハ教室ノ出入ヲ停メテ反省セシメ放校ハ學校ヨリ放逐スルモノトス

第四十三條 前條外ニ規程ノ明文アルモノハ之ニ依リ處分ス

第六章 授業料

第四十四條 授業料ハ一學年金五拾圓トス

第四十五條 授業料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一學期分 金拾五圓

第二學期分 金貳拾圓

第三學期分 金拾五圓

授業料徴收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第四十七條 第十四條ニ依リ入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヨ

リ之ヲ徴收ス

第四十八條 學期開始後退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徴收ス但論旨ニ依リ退學スル者ノ授業料ハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 授業料ハ缺席停學休學等ノタメニ之ヲ免除スルコトナ

シ但第二十四條ニ依リ休學シタル者ニ對シテハ授業料徴收期ノ前ニ在リテハ次月分ヨリ其ノ後ニ在リテハ次學期分ヨリ之ヲ徴收セス

第五十條 第二十四條ニ依リ休學シタル者學期ノ中途ニ於テ課業ニ就キタルトキハ當該學期分ノ授業料ハ其ノ月分ヨリ之ヲ徴收ス

第五十一條 第四十九條但書及第五十條ノ場合ニ於ケル授業料ノ月割額ハ金五圓トス但第一學期分授業料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第七章 制服

第五十二條 生徒ハ制服ヲ着用スヘシ

制服ハ左ノ通之ヲ定ム

一 正帽

製式 丸形

品質 絨

色 黒

徽章 菊花三輪ト菊葉三葉ト(眞鍮製、金色)ヲ交互ニ排列シ、浦高ノ

文字(銀鍍金、銀色)ヲ表シタルモノ

横章 白線二條(幅各約二分)

二 正服

(一) 衣

製式 背廣形立襟

品質 絨

色 濃紺又ハ黒

襟章 文科ハL理科ハS(眞鍮製、金色)ヲ左襟ニ付ス

釦 圓形ニシテ徽章ヲ表シタルモノ(眞鍮製、金色)

(二) 袴

製式 普通

地質 衣ニ同シ

色 衣ニ同シ

三 靴

製式 短靴(編上及深護謨ヲ含ム)

品質 革又ハズツク

色 黒

四 略帽

製式 普通形(縁約二寸、高サ約三寸)

品質 麥藁

鉢卷 焦茶地(幅約一寸七分)ニ白線(幅約二分)ニ條間隔約二分

徽章 正帽ニ同シ

五 略服

(一) 衣

製式 正服ノ衣ニ同シ

品質 小倉

色 藍鼠霜降

襟章 正服ノ衣ニ同シ

釦 正服ノ衣ニ同シ

(二) 袴

製式 正服ノ袴ニ同シ

地質 衣ニ同シ

色 衣ニ同シ

六 脚絆

製式 編上脚絆

品質 木綿又ハ絨

色 濃紺又ハ黒

第八章 寄宿寮

第五十三條 寄宿寮ハ生徒ヲ寄宿セシメ本校ノ教育ト相俟ツテ之ヲ訓練スル處トス

第五十四條 寄宿寮ハ一學年ヲ以テ一期トシ春季休業及夏季休業ノ終始ニ之ヲ開閉ス

第五十五條 新ニ入學シタル者ハ少クモ一學年間ハ總ヘテ寄宿寮ニ寄宿スヘキモノトス但特別ノ事情アル者ニ對シテハ詮議ノ上通學ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十六條 寄宿寮ニ寄宿スヘキ者ノ數收容人員數ニ超過スルトキ

ハ若干名ヲ限リ通學ヲ命スルコトアルヘシ

第五十七條 在寮生徒ハ學年ノ中途ニ於テ退寮スルコトヲ得ス但特

別ノ事情アル者ニ對シテハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十八條 在寮生徒ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類又ハ症

狀ニ依リ外泊又ハ退寮セシムルコトアルヘシ

第五十九條 在寮生徒ハ生徒監ノ許可ヲ得ルニアラサレハ外泊歸郷

又ハ旅行スルコトヲ得ス

第六十條 寄宿料ハ一學年金貳拾圓トス

第六十一條 寄宿料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徵收ス

第一學期分 金六圓

第二學期分 金八圓

第三學期分 金六圓

寄宿料徵收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 既納ノ寄宿料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第六十三條 寄宿料徵收期日後入寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヨリ

寄宿料徵收期日前ニ退寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於ケル寄宿料月割額ハ金貳圓トス但第一學期分寄宿

料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第九章 圖書及器具機械

第六十四條 圖書ヲ閱覽セシムルタメニ圖書閱覽室ヲ設ク

第六十五條 圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ル者ハ職員生徒及學校長ノ特

許ヲ得タル者ニ限ル

第六十六條 職員ハ圖書ヲ借受クルコトヲ得

第六十七條 教務及事務上特ニ必要ナル圖書ハ特別ノ場所ニ備付ク

ルコトヲ得

第六十八條 學術用器具及機械ハ各所屬教室ニ備付ク

第六十九條 生徒ハ擔任教官ノ許可ヲ受ケ實習用器具機械ヲ使用スルコトヲ得

第七十條 圖書及器具機械ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルトキハ同一ノモノヲ以テ償ハシメ又ハ修理ヲ加ヘシム但場合ニ依リ相當代價又ハ修理料ヲ以テ代償セシムルコトアルヘシ

第五 生徒心得

第一條 生徒ハ教育ニ關スル勅語ノ聖旨ヲ奉體シ須臾モ忽忘スヘカラス

第二條 生徒ハ居常左ノ四綱領ヲ遵守スヘシ

- 一 智德ヲ研キ體力ヲ練リ剛健博大ノ性格ヲ陶冶スヘキコト
- 二 廉恥ヲ尚ヒ勤儉ヲ旨トシ高潔敦厚ノ精神ヲ涵養スヘキコト
- 三 紀律ヲ守リ責任ヲ重ンシ自重自治ノ習慣ヲ體得ススキコト
- 四 師長ヲ敬ヒ學友ヲ愛シ恭順寛容ノ風度ヲ保持スヘキコト

第六 細則

一 學則施行細則

第一章 隨意科目及選擇科目

第一條 隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ履修スルコトヲ得ス

第二條 入學ヲ許可セラレタル者ニシテ隨意科目ヲ履修セムトスル者ハ指定ノ期日迄ニ其ノ旨届出ツヘシ

第三條 隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ其ノ履修ヲ止ムルコトヲ得ス
次學年ヨリ隨意科目ノ履修ヲ止メムトスル者ハ其ノ學年ノ終ニ於テ届出ツヘシ

第四條 選拔試験ノ外國語ニ獨語又ハ佛語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ本校ノ都合ニ依リテハ第二外國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ

第五條 學則第五條第二項ニ依ル學科目ノ選擇ハ第二學年ノ終ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第六條 前條學科目ノ選擇ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第二章 入學、在學及休學

第七條 入學志望者ハ其ノ入學後修業セムトスル科及類ヲ指定スヘシ指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

選拔試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類ニ箇同一科内ノ類ニ

限ルヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類ニ限ル

第八條 入學後ニ於テハ類ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 學則第十八條ニ依リ入學ノ許可ヲ得タル者ノ差出スヘキ在學證書ノ様式ハ左リ通之ヲ定ム

三錢收
入印紙

在學證書

私儀今般御校へ入學許可相成候ニ付テハ御校在學中ハ校則等堅ク可相守ハ勿論御校ノ學籍ヲ脱シ候後ト雖在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必ス履行可致此段誓約候也

本籍族稱(戶主又ハ戶主某何男等)
現住所

文(理)科何類第何學年生徒

年月日

何

某印

年月日生

前文何某儀今般御校ニ入學許可相成候ニ付テハ御校在學中監督保護ノ責ニ任スルハ勿論御校ノ學籍ヲ脱シ候後ト雖在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必ス履行可爲致萬一違背致候節ハ拙者ニ於テ一切引受可申此段保證候也

本籍族稱業務

現住所

本人トノ續柄

年月日

保證人 何

某印

年月日生

浦和高等學校長 何某殿

第十條 課業ニ遅刻シタル者ハ學則第二十條ニ準シ手續ヲナスヘシ

第十一條 遅刻缺席ヲ届出ツル場合ニハ組監督ノ檢印ヲ受クヘシ

組監督缺勤等ノタメ期間内ニ檢印ヲ受ケ難キトキハ其ノ旨生徒課

ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第十二條 戶籍ニ異動ヲ生シタル者ハ戶籍謄本ヲ添へ遲滞ナク届出

ツヘシ

第十三條 陸軍又ハ海軍現役ニ服シ若クハ召集ニ應シタル者ハ其ノ

役名服役又ハ召集ノ期間及部隊又ハ艦艇名ヲ具シ遲滞ナク届出ツ

ヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ學則第二十一條第二項及第

二十二條ニ依ル願出ヲナスコトヲ得ス

一 學則第二十三條ニ依リ休學シタル者

二 缺席ノ日數回數夥多ナル者

三 學業ノ成績不良ナル者

第十五條 第三學期ニ於テハ學則第二十三條ニ依ル願出ヲナスコトヲ得ス

第三章 編 制

第十六條 學級ハ每學年ノ始ニ編制シ之ヲ組ト稱ス

第十七條 各組ニ正副組長各一名ヲ置ク

正副組長ハ當該組生徒ノ互選シタル倍數ノ候補者中ニ就キ學校長之ヲ命ス

第十八條 正副組長ハ組監督ノ指揮ヲ受ケ當該組ノ紀律ヲ保持シ其

ノ他諸般ノ要務ニ任スルモノトス

第十九條 正副組長ノ任期ハ第二學年以上ニ在リテハ一學年間トシ

第一學年ニ在リテハ第一學期間及第二第三學期間トス

第四章 成績考査

第二十條 學期試驗ハ其ノ學期間ニ履修シタル事項ニ就キ之ヲ行フ

但當該學期前ニ履修シタル事項ニ就キテモ之ヲ行フコトアルヘシ

第二十一條 第一學年ノ修身ハ成績ヲ考查セス

第二十二條 國語及漢文中ノ作文、物理、化學並ニ植物及動物中ノ實驗

及體操ハ試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十三條 每學期一回以上臨時試驗ヲ行フコトアルヘシ

日常ノ授業ニ於テ平素ノ課業ノ成績ヲ考查シ難キ科目ニ在リテハ

每學期一回以上臨時試驗ヲ行フヲ常例トス

臨時試驗ノ成績ハ平素ノ課業ノ成績ノ一部又ハ全部ト看做ス

第二十四條 學則第三十五條ニ依リ追試驗ヲ受ケムトスル者ハ其ノ

事由ヲ詳記シ同條第一號及第二號ニ該當スル者ニ在リテハ次學期

同條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ次學年ノ始マテニ願出ツヘシ

但同條第二號ニ該當スル者ハ願書ニ戶籍謄本ヲ添付スヘシ

第五章 授 業 料

第二十五條 授業料及寄宿料徵收期日ハ左ノ通之ヲ定ム

第一學期分 四月十六日ヨリ 同月十八日マテ

第二學期分 九月十六日ヨリ 同月十八日マテ

第三學期分 一月十六日ヨリ 同月十八日マテ

前項ノ期中休業ニ當ル日アルトキハ順延ス

第二十六條 授業料及寄宿料ハ前條ノ徵收期日內ニ於テ所定ノ納付

書用紙ニ所要事項ヲ記入シタルモノヲ添ヘ之ヲ會計課ニ納付スヘ

シ

授業料及寄宿料ハ現金ヲ以テ納付スヘシ但病氣其ノ他ノ事故ニ依

リ歸郷シ又ハ他ノ地方ニ在ル者ハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ

得

第二十七條 已ムヲ得サル事故ノタメニ第二十五條ノ徵收期日內ニ

授業料又ハ寄宿料ヲ納付スルコト能ハサル者ニ對シテハ三日以内ヲ限り徴收ヲ猶豫ス

第二十八條 第二十五條ノ徴收期ヲ過キテ納付ノ義務ヲ生シタル授業料又ハ寄宿料ハ其ノ義務ヲ生シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第二十九條 第二十七條及第二十八條ノ期限内ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ課業ヲ停止ス

第三十條 第二十七條及第二十八條ノ期限滿了ノ翌日ヨリ二週間以内ニ尚授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ハ學則第二十八條第六號ニ依リ之ヲ除名ス

第六章 制服

第三十一條 登校スル場合ニハ必ス制服ヲ着用スヘシ但脚絆ハ體操ノ課業ヲ受ケ其ノ他特ニ指定シタル場合ノ外之ヲ着用セサルコト

ヲ得

第三十二條 已ムヲ得サル事由ニ依リ制服ヲ着用スル能ハサル者ハ教務課ヲ經テ其ノ旨願出ツヘシ

第三十三條 外出ノ際ハ成ルヘク制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス制帽並ニ袴ヲ着用スヘシ

第三十四條 略帽、略服ハ五月一日ヨリ十月十日マテ之ヲ着用スルコトヲ得

第三十五條 儀式其ノ他特ニ示達シタル場合ニハ前條ニ拘ラス正帽正服ヲ着用スヘシ

第三十六條 外套ヲ着クル者ハ乗馬形(絨製、濃紺色又ハ黑色)ノモノヲ用フヘシ但マント(絨製、濃紺色又ハ黑色)ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十七條 新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ其ノ年五月一日マテ本章ノ規定ヲ適用セス但靴ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 體操中體操ノ授業ヲ受タル場合ニハ體操用帽及袴ヲ着用スヘシ

體操用帽及袴ノ制式、品質等ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 寄宿寮

第三十九條 在寮生徒ハ本校教育ノ趣旨ヲ體シテ修養ニ勉メ特ニ和衷協同ノ習慣ヲ養ハムコトヲ期スヘシ

第四十條 在寮生徒ハ規約ヲ定メ學校長ノ認可ヲ經テ之ヲ實行スヘシ

規約ヲ以テ定ムヘキ事項左ノ如シ

一 寮内ノ秩序、風紀並ニ衛生ニ關スルコト

二 炊事ニ關スルコト

三 其ノ他必要ナル事項

第四十一條 新ニ入學シタル者外ノ生徒ニシテ入寮ヲ願出ツルトキ

ハ收容ノ餘裕アル場合ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ
第四十二條 特別ノ事情ニ依リ退寮セムトスル者ハ其ノ事情ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但病氣ニ依リ退寮セムトスル者ハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第四十三條 各室人員ノ配置ハ生徒課長之ヲ定ム

第四十四條 各寮ニ總代一名及寮内ニ委員若干名ヲ置ク

總代ハ每學年ノ終ニ於テ次學年ニ在寮スヘキ者ノ選舉セシ十二名ノ候補者ニ就キ學校長之ヲ命ス

委員ハ在寮生徒ノ互選トシ學校長ノ認可ヲ經テ就任ス

委員ノ互選區域及員數ノ配當ハ生徒課長之ヲ定ム

第四十五條 總代ノ任期ヲ一學年間トシ委員ノ任期ヲ一學期間トス但再選スルコトヲ得

第四十六條 總代及委員ハ生徒監ノ指揮ヲ受ケ寮内ノ整理ニ任シ規

則規約ノ實行ヲ督勵ス

第四十七條 寮内ノ日課時限ハ學校長ノ認可ヲ受ケ生徒課長之ヲ定ム
第四十八條 在寮生徒ハ毎夜點檢ヲ受クルモノトス但病氣其ノ他ノ
事故ニ依リ點檢ヲ受クルコト能ハサル者ハ豫メ生徒課ニ届出ツヘ
シ

第四十九條 已ムヲ得サル事情アリテ所定ノ時間外ニ外出セムトス
ル者ハ豫メ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第五十條 外出中已ムヲ得サル事情アリテ歸寮時限ニ遅レタル者ハ
其ノ事由ヲ具シ歸寮ノ際直ニ届出ツヘシ

第五十一條 已ムヲ得サル事情アリテ外泊セムトスル者ハ豫メ生徒
監ノ許可ヲ受ケ歸寮ノ際外泊先ノ證明書ヲ差出スヘシ
外出中外泊スルノ已ムヲ得サル事情ヲ生シ前項ノ手續ヲ履ムコト
能ハサルトキハ速ニ其ノ事由ト居所トヲ届出テ歸寮ノ際外泊先ノ

證明書ヲ差出スヘシ

第五十二條 春期夏期及冬期休業日外ニ於テ歸郷シ又ハ旅行セムト
スルトキハ日數及旅行先ヲ明記シ願出テ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
歸寮ノ際ハ歸郷先又ハ外泊先ノ證明書ヲ差出スヘシ

第五十三條 在寮生徒ニシテ停學ニ處セラレタル者ハ直ニ退寮セシ
ム但在寮ノマ、謹慎セシムルコトアルヘシ

第五十四條 第四十八條乃至五十二條又ハ時々ノ告示訓諭ニ違背シ
タル者ハ學則第四十一條ニ依リ之ヲ懲戒シ又ハ退寮セシム

第八章 通學

第五十五條 通學生徒ハ異動ノ有無ニ拘ラズ毎學期ノ始ニ於テ所定
ノ用紙ニ宿所ニ關スル事項ヲ認メ組監督ヲ經テ生徒課ニ差出スヘ
シ

第五十六條 通學生徒宿所ヲ變更シタル時ハ三日以内ニ更ニ前條ノ

手續ヲナスヘシ

第五十七條 通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタルトキハ日ヲ限
リ之ヲ變更セシム

第五十八條 通學生徒ニシテ休業日外ニ旅行シ又ハ歸郷スル等ノタ
メニ宿所ニ在ラサルコト一週日以上ニ亘ル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ
豫メ生徒課ニ届出ツヘシ

第五十九條 通學生徒ハ寄宿寮ニ出入スヘカラス

在寮生徒ニ面會セムトスルトキハ必ス應接室ニ於テナスヘシ

第六十條 第五十五條第五十六條及第五十八條ノ届出ヲ怠リ又ハ事
實ヲ虚構シタル者若クハ第五十七條及第五十九條ニ違背シタル者
ハ學則第四十一條ニ依リ之ヲ懲戒ス

第九章 圖書

第六十一條 圖書閱覽室ハ休日(日曜日ヲ除ク)ノ外毎日之ヲ開ク但臨

時開閉スルコトアルヘシ

開閉時限ハ時々之ヲ揭示ス

第六十二條 圖書閱覽ノ證トシテ圖書閱覽票ヲ設ケ每學年ノ始ニ於
テ之ヲ交付ス

第六十三條 圖書閱覽票ハ他人ニ轉貸スヘカラス若シ之ヲ紛失シタ
ルトキハ速ニ届出ツヘシ

第六十四條 圖書ヲ閱覽セムトスル者ハ所定ノ閱覽用紙ニ所要事項
ヲ詳記シ圖書閱覽票ト共ニ掛員ニ差出スヘシ

第六十五條 一人ニテ一時ニ閱覽シ得ヘキ圖書ノ部數又ハ冊數ハ掛
員ニ於テ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第六十六條 圖書ノ閱覽ヲ了ヘタルトキハ直ニ返納スヘシ

第六十七條 閱覽ノ圖書ハ圖書室外ニ携出スルコトヲ得ス

一 圖書閱覽室ニ於テハ喫煙、音讀、雜談其ノ他凡テ他人ノ障礙トナルヘキ舉動アルヘカラス

二 圖書閱覽室ニハ圖書、筆墨、紙類ヲ除ク外物品ヲ携帯スヘカラス

三 圖書閱覽室ニ於テハ制服又ハ袴ヲ着用スヘシ

第六十九條 閱覽ノ圖書ハ鄭重ニ取扱フハ勿論若シ紛失、毀損又ハ汚染シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第七十條 第六十三條、第六十六條及第六十七條乃至第六十九條ニ違背シ又ハ其ノ他ノ不都合ナル行爲アル者ハ圖書ノ閱覽ヲ停止スルコトアルヘシ

第七十一條 圖書ヲ借受ケムトスルトキハ自ラ圖書課ニ就キ所定ノ證書用紙ニ所事項ヲ詳記シ捺印ノ上掛員ニ差出スヘシ

借受ケタル圖書ハ之ヲ轉貸スヘカラス

七十二條 教官ハ掛員ノ承認ヲ經テ書庫ニ入リ圖書ヲ檢索スコト

ヲ得

第七十三條 教官ハ一人貳拾冊、其ノ他ノ職員ハ一人五冊ヲ限リ圖書ヲ借用スルコトヲ得但和漢裝ノモノハ本文ノ冊數ヲ倍スルコトヲ得

第七十四條 貴重圖書、圖書閱覽室ニ備付ヲ要スル圖書ハ之ヲ借受クルコトヲ得ス

第七十五條 一人ニシテ同一ノ圖書二部以上ヲ借受クルコトヲ得ス

第七十六條 借受ケタル圖書ハ毎年七月五日迄ニ悉皆之ヲ返納スヘシ但時宜ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第七十七條 學則第六十七條ニ依リ特別ノ場所ニ備付クル圖書ノ監守ニ關シテハ當該場所ニ於ケル物品監守者其ノ責ニ任ス

二 生徒心得細則

第一條 生徒ハ職員ニ對シテハ勿論相互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第二條 生徒ハ始業ノ號鐘ヲ聞クトキハ直ニ着席シ教官ノ入室ヲ待ツヘシ

教官入室スルトキハ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ退室スルトキ亦同シ

第三條 教室ニ在リテハ授業時中ハ勿論休憩時中ト雖靜肅ヲ旨トシ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第四條 教室内ニハ學用品辨當ノ外所持品ヲ持込ムヘカラス

第五條 校内ニ於テハ指定場所ノ外喫煙スヘカラス

第六條 建物又ハ器物ヲ毀損シ若クハ汚染スヘカラス

前項ニ違背シタル者ニ對シテハ情狀ニ依リ之ヲ辨償セシム

第七條 本校ノ示達ハ所定揭示場ニ就キ承知スヘシ

揭示後三日ヲ經タルモノハ一般ニ知了シタルモノト看做ス

第八條 揭示ヲナサムトスル者ハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 集會ヲナサムトスルトキハ其ノ代表者ヲ定メ集會ノ目的、種類、時日、場所、會費ヲ要スルモノニ在リテハ更ニ其ノ金額等ヲ具シ集會ノ前日マテニ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 集會ノタメ校舍ヲ借用セムトスルトキハ教務課ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 校外ニ於ケル集會ハ風紀ヲ害シ多額ノ費用ヲ要スルノ虞ナキ場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十二條 集會ハ休業日又ハ放課後ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十三條 定期ノ集會ヲ創設セムトスルトキハ生徒課長ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 定期ノ集會ヲ解散シタルトキハ生徒課長ニ届出ツヘシ

第十五條 校ノ内外ヲ問ハス總ヘテ其ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アルヘカラス

三 職員服務規程

第一章 教官ノ服務

- 第一條 教官ハ教育事務ヲ擔任ス
- 第二條 教官ハ學校長ノ命ヲ承ケタル場合ニ於テ學科主任、組監督ノ事務ニ從事スヘシ
- 第三條 教官ハ學校長ノ命ヲ承ケタル場合ニ於テ分課ノ事務ニ從事スヘシ
- 第四條 教官ハ學校長ノ命ヲ承ケタル場合ニ於テ入學者選抜試驗、高等科學力檢定試驗其ノ他臨時ノ事務ニ從事スヘシ
- 第五條 教官ハ教授訓育其ノ他ノ事項ニ就キ意見アルトキハ之ヲ學校長ニ具申スヘシ
- 第六條 報酬ヲ受ケテ他ノ職務ニ從事セムトスル者ハ教授、助教授ニ在リテハ學校長ヲ經テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ他ノ教官ニ在リテハ

學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 第七條乃至第二十一條ノ規定ハ之ヲ教官ノ服務ニ準用ス

第二章 事務員ノ服務

- 第八條 書記及雇員ハ分課事務ヲ擔任ス
- 雇員ハ前項ノ外特別教室ニ勤務セシムルコトアルヘシ
- 第九條 事務繁劇ナルトキ若クハ至急處理ヲ要スルモノアルトキハ執務時間外又ハ休日ト雖執務スヘシ
- 第十條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ由リ缺勤スル者ハ當日執務時限前ニ事由ヲ具シ届出ツヘシ
- 疾病ノタメ缺勤スルコト七日以上ニ涉ルトキハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第十一條 執務時限中發病等ノタメ退出セムトスルトキハ上官ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 父母ノ祭日ニ休暇ヲ要スル者ハ前日中ニ届出ツヘシ
第十三條 親族ノ喪ニ丁リ服忌ヲ受クル者ハ其ノ親屬關係ヲ記シ届出ツヘシ

第十四條 轉地療養、父母ノ病氣看護又ハ父母ノ墓參ノタメ請暇セムトスル者ハ日限及行先地ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第十五條 陸軍又ハ海軍ノ召集又ハ簡閱點呼ニ應スル者ハ日限及應召地部隊艦艇等ヲ記シ出發前ニ届出ツヘシ

第十六條 賜暇中旅行セムトスル者ハ日限及旅行地ヲ記シ出發前ニ届出ツヘシ

第十七條 出張ノ命ヲ受ケタル者ハ出發及歸校ノ際其ノ旨ヲ届出テ且歸校後五日以内ニ復命書ヲ差出スヘシ但簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十八條 新任者ハ五日以内ニ住所届及履歷書ヲ差出スヘシ

住所ヲ移轉シ又ハ氏名、族籍ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度届出ツヘシ

第十九條 官廳其ノ他ヨリ本校ヲ經由セスシテ辭令書ヲ受ケ其ノ事項ノ履歷ニ關係アルモノハ其ノ都度届出ツヘシ

第二十條 轉任免官休職等ノ際又ハ分課事務ヲ免セラレタルトキハ取扱事務ニ關スル書類及物品ノ引繼ヲナスヘシ

第二十一條 非常事故アルトキハ速ニ登校シ上官ノ指揮ヲ受クヘシ事急ヲ要スルトキハ當直者及登校者ニ於テ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第三章 當直者ノ服務

第二十二條 當直勤務ハ事務當直及寮當直トス

第二十三條 書記及雇員ハ輪番ヲ以テ事務當直ニ服スヘシ

生徒課勤務ノ教官ハ輪番ヲ以テ寮當直ニ服スヘシ

第二十四條 當直時間ハ平日ニ在リテハ執務時間ノ終ヨリ翌日ノ執

務時間ノ始又ハ之ニ相當スル時限マテトシ休日ニ在リテハ執務時
限ノ始ニ相當スル時限ヨリ翌日ノ執務時限ノ始又ハ之ニ相當スル
時限マテトス

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ當直ヲ免ス

一 出張中、出張ノ前日、出張先ヨリ歸校ノ翌日

二 賜暇中

三 忌引中

四 疾病其ノ他ノ事故ニ由ル缺勤中

五 新任者著任ノ日ヨリ七日間

六 以上ノ外學校長ニ於テ除番スヘキ必要アリト認メタルトキ

第二十六條 事務當直者ノ任務ハ概ネ左ノ如シ

一 校舎各室ノ鎖鑰ヲ管守スルコト

二 校舎内外ノ取締ニ任スルコト

三 接受シタル物件ヲ處理スルコト

四 火災ノ虞アル場所並ニ器物ニ對シ特ニ注意スルコト

第二十七條 寮當直ハ寄宿寮ノ管理及取締ニ任シ寮内一切ノ事務ヲ
處理スヘシ

第二十八條 當直者ハ勤務中學校ヲ離ル、コトヲ得ス

第二十九條 當直者ハ其ノ任務ニ關シ互ニ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 當直中非常事故アルトキハ之ヲ學校長ニ急告シ且臨機ノ
處置ヲナスヘシ

第三十一條 當直者ノ服務ニ關スル細目ハ事務當直ニ在リテハ庶務
課長、寮當直ニ在リテハ生徒課長之ヲ定ムヘシ

處置ヲナスヘシ

第三十二條 學校醫ハ左ノ事務ヲ擔任ス

一 學校衛生ニ關スルコト

第四章 學校醫ノ服務

第三十二條 學校醫ハ左ノ事務ヲ擔任ス

一 學校衛生ニ關スルコト

二 生徒ノ疾病治療ニ關スルコト

三 身體検査及身體検査票ニ關スルコト

四 寄宿寮附屬病室ノ整理ニ關スルコト

第三十三條 學校醫ハ休日ヲ除クノ外所定ノ日時ニ出校執務スヘシ
但必要アルトキハ臨時出校執務スヘキモノトス

第三十四條 學校醫ハ所定ノ様式ニ依リ生徒ノ病類別患者月表及同
年表ヲ調製シ月表ハ翌月五日、年表ハ翌年度四月十五日限り差出ス
ヘシ

第三十五條 疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ニ依リ缺勤スルトキハ相
當ノ代人ヲ出校セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ氏名ヲ届出ツル
モノトス

第三十六條 學校醫ハ衛生上ノ施設ニ就キ意見アルトキハ之ヲ學校
長ニ具申スヘシ

四 校務分掌規程

第一章 教育事務

第一條 教授ニ關スル事務ハ學科毎ニ當該教官ノ分擔トス

第二條 訓育ニ關スル事務ハ全教官ノ擔任トシ生徒監之ヲ主掌ス

第三條 教育事務ヲ整理セシムカタクメ學科主任及組監督ヲ置ク

第四條 學科主任ハ左ノ學科ニ就キ各一人トシ教官中ニ就キ學校長
之ヲ命ス

第一文學科 修身、法制及經濟

第二文學科 國語及漢文

第三文學科 歴史、地理

第四文學科 哲學概説、心理及論理

第一語學科 英語

第二語學科 獨語

第三語學科 佛語

第一理學科 數學

第二理學科 物理、自然科學中物理ニ關スル事項

第三理學科 化學、自然科學中化學ニ關スル事項

第四理學科 植物及動物、礦物及地質、自然科學中植物及動物並ニ礦

物及地質ニ關スル事項

第五理學科 圖畫

體操科 體操

第五條 學科主任ノ擔任スヘキ事務ハ左ノ如シ

一 當該學科教授ノ統一改善ヲ圖ルコト

二 當該學科ノ教科用書ヲ豫選スルコト

三 當該學科ノ教授ノ分擔ヲ定ムルコト

四 當該學科ノ教授上必要ナル參考用書、器具、機械、標本、藥品等ヲ調

查スルコト

五 其ノ他當該學科ニ關スルコト

第六條 組監督ハ各組一人トシ教官中ニ就キ學校長之ヲ命ス

第七條 組監督ハ別ニ定ムル規程ニ依リ當該組ニ關スル事務ヲ擔任

ス

第八條 組監督ノ任期ハ一學年間トス

第二章 分課事務

第九條 一般事務ヲ分掌セシメムカタメ教務課、圖書課、生徒課、會計課

及庶務課ヲ置ク

第十條 教務課、圖書課、生徒課及庶務課ニ課長ヲ置ク

課長ハ教官中ニ就キ學校長之ヲ命ス

第十一條 課長及會計主任ハ所屬職員ヲ率井分掌事務ヲ整理ス

第十二條 分課所屬ノ職員ハ課長又ハ會計主任ノ指揮ヲ受ケ事務ニ

從事ス但時宜ニ依リ他ノ分課ノ事務ヲ補助スヘキモノトス
第十三條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 教官ノ分擔及日課ノ配當ニ關スルコト
- 二 學科課程及教科用書ニ關スルコト
- 三 組ノ編制ニ關スルコト
- 四 授業及休業ニ關スルコト
- 五 成績考查ニ關スルコト
- 六 成績證明ニ關スルコト
- 七 生徒ノ學籍簿、出席簿及教官手帖ニ關スルコト
- 八 生徒募集及選拔試験ニ關スルコト
- 九 入學ニ關スルコト
- 十 教授會ニ關スルコト
- 十一 高等科學力檢定試験及教員無試験檢定願ニ關スルコト

- 十二 修業科類及隨意科目、撰擇科目ニ關スルコト
- 十三 卒業者ノ大學進入ニ關スルコト
- 十四 教官ノ缺勤、早退、遲刻屆書類ニ關スルコト
- 十五 參觀者ノ取扱ニ關スルコト
- 十六 教室及教官室ニ關スルコト
- 十七 其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第十四條 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 圖書ノ保存及整理ニ關スルコト
- 二 圖書目錄ニ關スルコト
- 三 書庫及閱覽室ニ關スルコト
- 四 圖書ノ貸付ニ關スルコト
- 五 購入圖書ノ審査ニ關スルコト
- 六 其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第十五條 生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 生徒ノ取締ニ關スルコト
- 二 生徒ノ訓誨及賞罰ニ關スルコト
- 三 生徒ノ缺席、缺課及遲刻ニ關スルコト
- 四 生徒ノ休學、退學及除名ニ關スルコト
- 五 生徒ノ學籍及兵役ニ關スルコト
- 六 在學證明及品行證明ニ關スルコト
- 七 正副組長ニ關スルコト
- 八 生徒ノ通學及宿所ニ關スルコト
- 九 生徒ノ衛生及身體檢查ニ關スルコト
- 十 生徒ノ集會ニ關スルコト
- 十一 生徒ノ揭示ニ關スルコト
- 十二 生徒ノ學資ニ關スルコト

第十六條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 歲入、歲出、豫算及決算ニ關スルコト
- 二 資金ニ關スルコト
- 三 金錢ノ收支及保管ニ關スルコト
- 四 歲入、歲出及物品證明ニ關スルコト
- 五 物品購入及不用物品處分ニ關スルコト

- 六 物品ノ出納及保管ニ關スルコト
- 七 校地、校舍及其ノ營繕ニ關スルコト
- 八 電話、電燈、瓦斯、給水及煖房ニ關スルコト
- 九 校内ノ警備取締ニ關スルコト
- 十 校舍内外ノ洒掃ニ關スルコト
- 十一 備人ノ進退及取締ニ關スルコト
- 十二 其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

第十七條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 御眞影、御影及勅語ノ保管ニ關スルコト
- 二 學校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
- 三 職員ノ進退、身分及服務ニ關スルコト
- 四 職員ノ願、伺届ニ關スルコト
- 五 備外國人ニ關スルコト

- 六 諸規則ノ制定改廢ニ關スルコト
 - 七 學校一覽ニ關スルコト
 - 八 官報報告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
 - 九 卒業證書ニ關スルコト
 - 十 文書ノ接受及發送ニ關スルコト
 - 十一 公文書類ノ整理保存ニ關スルコト
 - 十二 寄附ニ關スルコト
 - 十三 儀式ニ關スルコト
 - 十四 事務當直ニ關スルコト
 - 十五 評議員會ニ關スルコト
 - 十六 乘車乘船運賃割引券ニ關スルコト
 - 十七 各分課ノ主掌ニ屬セサル一切ノ事項
- 第十八條 各分課ノ事務ニシテ他ノ分課ニ關聯スルモノハ合議スヘ

シ

五 組監督規程

- 第一條 組監督ハ當該組ノ學事ヲ督勵シ風紀ヲ維持シ所屬生徒ヲシテ學校ノ規則命令ヲ遵守セシムコトヲ期スヘシ
- 第二條 組監督ハ學校ト所屬生徒ノ家庭トノ連絡ヲ圖リ兼テ師弟間ノ情誼ヲ敦ウセムコトヲ期スヘシ
- 第三條 組監督ハ所屬生徒中怠惰又ハ不品行ノ者アルトキハ其ノ都度之ヲ訓戒シ情狀重シト認ムルモノハ生徒課長ヲ經テ學校長ニ具申スヘシ
- 第四條 組監督ハ學校ノ命令諭告ヲ所屬生徒ニ傳達スヘシ
- 第五條 組監督ハ所屬生徒ヨリ差出スヘキ宿所、轉宿、休學、退學其ノ他ノ願届書類ヲ審査シ正當ト認ムルトキハ之ニ捺印スヘシ

第六條 組監督ハ教務課及生徒課ニ於テ調査セル當該組成績表及出缺表ヲ審査スヘシ

第七條 組監督ハ當該組教室ノ整頓並ニ備品ノ保管ニ任スヘシ

六 會議規程

- 第一條 會議ヲ分チテ評議員會及教授會トス
- 第二條 評議員會ハ學校長ノ諮問ニ應ジ校務ニ關スル重要ノ事項ヲ審議ス
- 第三條 評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス
評議員ハ各課長、生徒監及教官ノ互選シタル教授若干名ニ就キ學校長之ヲ命ス
必要アルトキハ臨時評議員外ノ職員ヲ加フルコトアルヘシ
- 第四條 教官ノ互選シタル評議員ノ任期ハ一學年間トス但再選スル

コトヲ得

第五條 教授會ハ學校長ノ諮問ニ應シ學科課程成績考查其ノ他學校長ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ審議ス

第六條 教授會ハ教授ヲ以テ之ヲ組織ス必要アルトキハ臨時教授外ノ職員ヲ加フルコトアルヘシ

七 成績考查内規 (抄)

第一條 文科ノ學業成績評點科目數ハ左ノ如シ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	○	—	—
國語及漢文	國語講讀及文法 一 漢文講讀及作文 二	國語講讀及文學 一 漢文講讀及作文 二	國語講讀及文學 一 漢文講讀及作文 二
第一外國語	其ノ一 其ノ二 其ノ三	其ノ一 其ノ二	同 上

第一外國語ヲ獨語又ハ佛語トシタル場合ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ學業成績評點科目數ハ左ノ如シ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第二外國語	(一)	(一)	(一)
歷史	日本史 一	東洋史 二 西洋史 二	西洋史 一
地理	—	—	—
哲學概說	—	—	—
心理及論理	—	—	—
法制及經濟	—	經濟 一	心理 一 法制 一
數學	—	—	—
自然科學	生物及地質 一	物理及化學 一	—
體操	—	—	—
計	10(11)	11(11)	10(11)

學科目	學年	第一學年			第二學年			第三學年		
		其	其	其	其	其	其	其	其	其
第一外國語		一	二	一	一	二	一	一	二	一
第二外國語										
計		一〇	一一	一一	一一	一二	一一	一二	一二	一一

第二條 理科ノ學業成績評點科目數ハ左ノ如シ

學科目	學年	第一學年			第二學年			第三學年		
		國語及漢文	修身	第一外國語	國語及漢文	修身	第一外國語	國語及漢文	修身	第一外國語
國語及漢文		二	〇	二	二	一	二	一	二	一
修身			〇			一		一		一
第一外國語		二		二	一		一		一	
第二外國語										
計		二	〇	二	二	一	二	一	二	一

學科目	學年	第一學年			第二學年			第三學年		
		代數	幾何	三角法及立體	代數	幾何	初等折幾何	微分及積分	初等力學	物理
代數		二	二	二	二	二	二	二	二	二
幾何		二	二	二	二	二	二	二	二	二
三角法及立體		二	二	二	二	二	二	二	二	二
植物		一	一	一	一	一	一	一	一	一
動物		一	一	一	一	一	一	一	一	一
植物及動物		一	一	一	一	一	一	一	一	一
礦物及地質		一	一	一	一	一	一	一	一	一
心理		一	一	一	一	一	一	一	一	一
法制及經濟		一	一	一	一	一	一	一	一	一
圖畫		一	一	一	一	一	一	一	一	一
體操		一	一	一	一	一	一	一	一	一
計		一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

第一外國語ヲ獨語トシタル場合ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ學業成績評點科目數ハ左ノ如シ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	其 其 其 ノ ノ ノ 三 二 一	其 其 其 ノ ノ ノ 三 二 一	其 其 其 ノ ノ ノ 三 二 一
第二外國語	(一)	(一)	(一)
計	一一(一二三)	一一(一四)	同 上

第三條 教官ハ學則施行細則第二十三條ニ依リ其ノ擔任ニ屬スル科目ノ臨時試驗ヲ行ハムトスルトキハ其ノ日時ニ就キ豫メ教務課ト協議スヘシ

第四條 教官ハ學則第三十條第二項ニ依リ每學期末ニ於テ其ノ擔任ニ屬スル科目ノ評點ヲ定ムヘシ

前項ノ評點ハ所定ノ評點表ニ之ヲ記入シ指定ノ期日迄ニ教務課ニ

差出スヘシ但學則第三十三條ニ依リ附與スヘキ某科目ノ認定評點ハ他ノ所要事項ト共ニ所定ノ認定評點表ニ之ヲ記入スルモノトス

第五條 一科目ヲ數人ニテ擔當スルトキハ當該學科主任ハ各人ノ擔當スルモノニ就キ評點ノ割合ヲ定ムヘシ但評點ハ各自ニ於テハ一百ヲ最高トシテ定ムヘシ

前項本文ノ評點ノ割合ハ豫メ教務課ニ届出ツヘシ

第六條 學則第三十三條ニ依リ附與スヘキ某科目ノ認定評點中認定試驗評點ハ日課評點(臨時試驗評點ヲ含ム以下之ニ同シ)ノ百分ノ六十ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 試驗評點ノミアリテ日課評點ナキ者ノ日課評點ハ試驗評點ニ基キ之ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於ケル日課評點ニ關シテハ前條ニ準ス

第八條 學期試驗ヲ行ハサル科目ニ於テ日課評點ナキ者ノ日課評點

ハ之ヲ零トス

第九條 學期成績ハ科目評點及平均評點六十未滿ノモノニ限リ〇(朱)印ヲ以テ學年成績ハ科目評點及平均評點ヲ甲乙丙丁四段ノ概評ヲ以テ生徒ニ表示ス甲ハ八十以上乙ハ八十未滿七十以上丙ハ七十未滿六十以上丁ハ六十未滿トス

第十條 教官ハ其ノ擔任ニ屬スル科目ノ成績不良ナル生徒ニ對シ評點ノ大體ヲ内示シテ將來ヲ誠ムル場合ノ外生徒ノ成績ニ關シ何人ニ對シテモ之ヲ内示スヘカラス

第十一條 試驗ノ問題及答案ハ其ノ試驗調査ノ終了シタル後ニ於テ之ヲ教務課ニ差出スヘシ

第七 職員

(大正十一年六月末調)

學校長

文學士 吉岡 郷甫 山口

第一文學科

主任、修身

生徒監教授文學士 須之部 量學 茨城

法制及經濟

講師 法學士 服部 實福 島

第二文學科

主任、國語

教授文學士 高木市之助 愛知

漢文

講師文學士 小野機太郎 群馬

第三文學科

主任、地理

教授文學士 竹村昌次長 野

歷史

教授文學士 大野法瑞 東京

第一語學科

職員

主任、英語

教授文學博士 松村武雄 熊本

英語

教授文學士 馬場吉信 香川

第二語學科

主任、獨語

教授文學士 上村清延 鹿兒島

獨語

教授文學士 林光雅 東京

第三語學科

佛語

教授文學士 須川彌作 東京

第一理學科

數學

教授理學士 下田卯市 東京

第四理學科

主任、植物及動物、自然科學

教授理學士 島地威雄 鹿手

礦物及地質

講師 和田八重造 奈良

礦物及地質實驗

教員 粟津秀幸 東京

第五理學科

圖畫

講師 平井富夫 東京

體操科

主任、體操

講師陸軍步兵中佐 長村利光 東京

體操

講師陸軍步兵曹長 山崎伊太郎 東京

體操

講師陸軍步兵特務曹長 龜山文之助 宮城

體操

講師陸軍步兵特務曹長 渡部三次 福島

評議員

教授 下田卯市

教授 竹村昌次

教授 須之部量學

教授 上村清延

組監督

教授 高木市之助

文科第一學年甲類組監督

教授 高木市之助

文科第一學年乙類組監督

教授 上村清延

文科第一學年丙類組監督

教授 馬場吉信

理科第一學年甲類組監督

教授 下田卯市

理科第一學年乙類組監督

教授 島地威雄

教務課

課長

教授 竹村昌次前出

勤務

書記 大伴楠男高知

植物及動物教室勤務

助手 江森貫一埼玉

兼勤

勤務

圖書課

雇 河島朝龜熊本

雇 田北豊城埼玉

課長

缺員

勤務

雇 河島朝龜前出

兼勤

雇 田北豊城前出

生徒課

生徒監教授 須之部量學前出

課長

講師 長村利光前出

勤務

講師 山崎伊太郎前出

勤務

講師 龜山文之助前出

勤務

講師 渡部三次前出

勤務

書記 鈴木宣昭埼玉

會計課

主任、勤務

兼勤

勤務

庶務課

課長

勤務

兼勤

書記 今村 壽福 岡

書記 平井 六尾 崎 玉

雇 坂本 勝藏 崎 玉

缺員

書記 平井 六尾 前 出

雇 坂本 勝藏 前 出

醫學士 高橋 鉄之助 崎 玉

石井 清崎 玉

學校醫

學校醫

第八生徒

(大正十一年四月末調)

一 生徒氏名

{五十音順、氏名ノ下段ハ本籍府
縣名及出身學校名略稱ヲ示ス}

第一學年

文科甲類 (四十人)

石田 英 東京 錦城

稻葉 厚 静岡 沼津

岡本 静彦 東京 東京第四

太田 慶太郎 静岡 開成

勝又 政見 東京 東京第三

河田 長彌 埼玉 熊谷

喜屋武 保昌 冲繩 日本大中

小坂 成二 東京 京華

鯉沼 呢 栃木 栃木

佐藤 俊男 福岡 中學傳習

坂野 謙次郎 埼玉 熊谷

澤口 剛雄 埼玉 浦和

下田 成太郎 熊本 東京第四

下山 索二 埼玉 米澤

守隨 一 愛知 成蹊

新藤 知義 埼玉 浦和

鈴木義三	神奈川	麻布
多田繁	東京	麻布
高橋俊次郎	栃木	宇都宮
德丸金三郎	埼玉	明治
中屋重敏	福岡	京都第二
西谷多喜夫	廣島	高資試
新國康彦	山形	米澤
野中義夫	群馬	桐生
馬場忠敬	東京	錦城
濱口彰太	和歌山	耐久
土方辰三	福岡	佐倉
藤倉寛三	高知	高知第三

文科乙類

(四十人)

藤田尚	大分	明治
藤本三常	鳥取	佐倉
増澤良平	長野	麻布
御牧守一	東京	麻布
宮島克一	東京	京都第二
矢部平八郎	埼玉	浦和
柳川昇	大阪	東京第三
山口政保	埼玉	藤岡
山田貞夫	長野	正則
吉田宏藏	群馬	前橋
吉田信俊	埼玉	早稻田
綿貫正次	埼玉	川越

赤坂政治	埼玉	川越
伊木寅雄	東京	東京第三
池本健一郎	宮城	開成
荻野謙三	愛知	東京第三
大河内信威	東京	東高附
大場朋次郎	神奈川	京都第二
加藤定吉	埼玉	浦和
笠井勝治	埼玉	浦和
川内忠次	新潟	村上
川田斌	埼玉	粕壁
紀伊輝夫	愛媛	開成
北西卯三郎	埼玉	浦和
日下信	福島	會津

佐藤良	青森	八戸
佐野五郎	山梨	明治
齋藤孝義	埼玉	熊谷
齋藤安路	東京	東高附
澤野小次郎	埼玉	浦和
鈴木行雄	京都	東京第一
鈴木俊	東京	開成
武山魁芳	兵庫	柏原
中山庸三	茨城	明治
七島徳次郎	福島	安積
贄田武	北海道	室蘭
濱中英田	埼玉	天臺中
藤森正平	熊本	東京第四

加藤宗三	大庭一郎	岡田真吉	上原四郎	池知政見	守屋節夫	增淵三郎	增田七郎	本多侍郎	堀川吉雄	堀	保坂英之輔
群馬	大阪	東京	大分	東京	宮城	茨城	新潟	福島	神奈川	東京	埼玉
太田	慶應普	開成	曉星	開成	古川	日本大中	東高附	浦和	浦和	明治	浦和
今日出海	小橋茂雄	木村良藏	吉川尙	金子辰太郎	渡邊光	和田治平	吉田滿壽	山田義夫	山口忠幸	矢野邦雄	諸井三郎
東京	埼玉	埼玉	熊本	新潟	長野	新潟	埼玉	北海道	東京	群馬	埼玉
曉星	曉星	熊谷	濟々	高田	錦城	日本大中	川越	明治	明治	東京第一	東高附

文科丙類 (四十人)

西川銀次郎	富田直之	戸野原三夫	手代木治兵衛	調所彰	武野隆次	武内彌四郎	善波周	清水真澄	坂上孝次	齋藤榮一	佐伯惟一	佐野碩
愛知	東京	廣島	福島	鹿兒島	岡山	東京	宮崎	埼玉	東京	東京	山口	東京
立教	順天	高輪	會津	京華	浦和	高千穂	延岡	粕壁	曉星	曉星	宇都宮	開成
山下義	矢部壽男	本吉加岐磐	本島明正	宮村勝男	前田龍二	堀内浩	堀豊次	藤本次之助	藤原裔生	藤田龍郎	原田五朗	野村在身
新潟	東京	千葉	東京	大分	大阪	石川	福井	東京	岡山	東京	京都	東京
族順	東京第四	目白	京華	麻布	曉星	東京第一	大野	東京第三	海城	麻布	京都第一	明治

山中謙二 山口曉星
山村介二 富山立教

理科甲類 (四十人)

阿川昌一 東京 曹洞第一
秋元武男 埼玉 浦和
岩田基 埼玉 浦和
江田益美 新潟 東高附
大石寅造 東京 東京中
大庭忠夫 静岡 掛川
加治木須惠人 東京 麻布
株木治郎 茨城 豊山
鏑木常正 東京 開成
神谷重雄 愛知 順天

湯淺由郎 東京 青山
吉田恒太郎 東京 東京第三

熊谷忠三郎 秋田 明治
黒田成勝 東京 芝
齋藤清三郎 山形 攻玉舎
昌谷駿介 東京 東京第四
鹽井健男 東京 東高附
關口友重 群馬 京北
田中太郎 佐賀 福岡
田中達次郎 埼玉 熊谷
田中雄哉 長野 諏訪
高橋貞一郎 東京 麻布

丹澤龍男 山梨 京華
中村政男 東京 逗子開成
花房東二 岡山 三田
濱野院 埼玉 矢掛
原博 神奈川 正則
日夏義雄 東京 開成
平野徳造 東京 開成
平野政三郎 熊本 日本
藤田四郎 栃木 宇都宮
堀鎮夫 東京 東京第四

理科乙類 (四十人)

堀井英一 新潟 柏崎
松本播州 東京 上田
三宅第三郎 埼玉 浦和
光藤富士男 岡山 東高附
村上富士男 東京 開成
茂木吉治 埼玉 熊谷
遊佐嘉平 宮城 築館
行實省吾 福岡 大成
吉野龜雄 群馬 大成
寄田豊 東京 浦和
石川龍雄 東京 麻布
市川純彦 長野 東高附

今泉政吉	埼玉浦和	柴田倫太	長崎麻布
内野倉徹	東京東京第一	島野武	東京獨協
大里文祐	秋田秋田	白木隆	神奈川厚木
大澤彦六	東京第二横濱	芹澤信一	千葉千葉
大野捷助	埼玉浦和	芹澤英夫	埼玉熊谷
賀茂秀男	静岡東京第一	田部非寅吉	埼玉熊谷
梶原義	長野大町	田村精一	東京京華
木島朝雄	埼玉熊谷	竹田八雄	福井立命館
鬼頭順三	愛知大成	塚田潔	茨城浦和
橘川篤	宮城東京第四	林省吾	埼玉川越
木村藤五郎	東京東北學院	原田力造	埼玉浦和
佐藤正男	宮城仙臺第二	平田篤資	千葉木更津
坂卷孝策	埼玉浦和	平井孝雄	埼玉浦和

福井達雄	兵庫鳳鳴	水郡茂	大阪八尾
真木光邦	福島磐城	村田嘉彦	埼玉熊谷
松原順三	埼玉東京第一	安井哲	東京鹿島
松井一夫	埼玉埼玉	湯澤俊郎	群馬富岡
三浦雕二	東京青山	若宮英三	山梨甲府

二 生徒本籍府縣別

府縣	文科		計
	第一學年	第一學年	
北海道	二	一	二
東京都	二九	二三	五二
大阪府	三	一	四

和歌山	山口	廣島	岡山	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	福島	宮城
一	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	四	二
			二			一	一	二	一		一	三
一	二	二	四	一	一	二	二	二	二	一	五	五

長野	山梨	静岡	愛知	枋木	茨城	千葉	群馬	埼玉	新潟	長崎	兵庫	神奈川
三	一	二	三	二	二	一	四	二四	五		一	三
三	二	二	二	一	二	二	三	一九	二	一	一	二
六	三	四	五	三	四	三	七	四三	七	一	二	五

總計	檢定 高等學校高等科入學 資格試驗合格者	業 卒				
		合計	大正七年以前	大正八年	大正九年	大正十年
一二〇	一	九二	三	五	一四	二四
八〇	一	六九	一	三	一一	二六
二〇〇	一	一六一	三	八	二五	五〇

第九 敷地及建物

本校敷地ハ其ノ主要部埼玉縣北足立郡浦和町字砂原ニ在リ同縣同郡
與野町ノ一小部ヲ含ム面積貳萬四拾坪建物ハ目下尙建築中ニ屬ス既
成ノモノハ左ノ如シ

用途別	構造種別	建坪	竣工年月日
當直室	木造 二階建	六、〇〇〇 ^坪	大正十年三月三十一日
小使室及物置	木造 平家建	五四、〇〇〇	同
同上 便所	木造 平家建	五〇〇	同
教室 事務室	木造 二階建	三七七、七八五	大正十一年三月三十一日
同 立 關	木造 平家建	一一、一八〇	同
同附屬 便所	木造 平家建	六、〇〇〇	同
同附屬渡リ廊下	同	一〇、五〇〇	同

寄宿寮 (第一寮、第二寮、第三寮)	木造 二階建	二〇七、〇〇〇	大正十一年四月三十日
同 附 屬 食 堂	木造 平家建	八五、〇〇〇	同
同 附 屬 炊 事 場、浴 室	同	八五、七五〇	同
同 附 屬 下 足 場	同	二二、五〇〇	同
同 附 屬 洗 面 場	同	一一、二五〇	同
同 附 屬 便 所	同	二五、五〇〇	同
同 附 屬 渡 廊 下	同	四七、〇〇〇	同
			上

附 錄

一 學友會規則

第一章 總 則

第一條 本會ハ浦和高等學校職員生徒融和輯睦シテ智德ヲ研磨シ身體ヲ鍛鍊シ善美ナル校風ヲ發揚スルヲ以テ目的トス

第二條 本會ヲ浦和高等學校學友會ト稱ス

第三條 本會々員ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一 特別會員 職員
- 一 通常會員 生徒

本校卒業者其ノ他本校ニ縁故アル者ハ贊助會員トナスコトヲ得
 第四條 本會ニ左ノ諸部ヲ置ク

- 一 辯論部
- 一 文藝部
- 一 劍道部
- 一 柔道部
- 一 弓道部
- 一 野球部
- 一 庭球部
- 一 陸上運動部
- 一 端艇部
- 一 旅行部
- 一 水泳部

第五條 會員ハ各部ノ部員タルコトヲ得

第六條 本會ハ毎年十一月八日ニ於テ運動會ヲ舉行ス

第二章 役員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長 一名
- 一 副會長 一名
- 一 理事長 一名
- 一 部長 各部一名宛
- 一 事務員 二名
- 一 理事 各類一名宛
- 一 委員 文藝部五名、陸上運動部三名、其ノ他ノ各部二名宛
- 一 組總代 各組一名宛

第八條 會長ハ學校長ヲ推戴ス

會長ハ會務ヲ總轄ス

第九條 副會長、理事長、部長及事務員ハ特別會員中ニ就キ會長之ヲ委

囑ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事長ハ本會ノ常務ヲ管理ス

部長ハ各其ノ部ノ常務ヲ管理ス

事務員ハ本會ノ庶務及會計ニ關スル常務ヲ掌理ス

第十條 理事ハ各類通常會員ノ互選ニ基キ會長之ヲ命ス

理事ハ本會ノ常務ヲ取扱フ

第十一條 委員ハ各部員ノ互選ニ基キ會長之ヲ命ス

委員ハ其ノ部ノ常務ヲ取扱フ

第十二條 組總代ハ組長ヲ以テ之ニ充ツ組長事故アルトキハ副組長

之ヲ代理ス

組總代ハ會務ニ關スル議事ニ參與ス

第十三條 理事及委員ノ任期ハ毎年一月一日ヨリ十二月末日マテト

シ、毎年十一月中ニ於テ之ヲ改選ス

第三章 會計

第十四條 特別會員ハ會費トシテ相當ノ金額ヲ寄附ス

通常會員ハ會費トシテ第一學期分及第三學期分各金貳圓第二學期

分金參圓ヲ每學期授業料ト同時ニ納付ス

通常會員ハ入金トシテ入會ノ當年第一學期ニ於テ金貳圓ヲ前項

ノ會費ト共ニ納付ス

既納ノ會費及入金ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返附セス

第十五條 會員ハ會費ノ外本會員又ハ本會員外ニ對シ寄附ヲ求ムル

コトヲ得ス

寄附ヲ申入ル、者アルトキハ會長其ノ受否ヲ決定ス

第十六條 收入金ハ信用アル銀行ノ預金トシテ之ヲ保管ス

第十七條 本會ノ會計年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日

ニ終ル

第十八條 本會ハ第十四條ノ會費、第十五條第二項ノ寄附金及第十六條ノ預金ヨリ生スル利子ヲ以テ收入トシ一切ノ經費ヲ支出トス

第十九條 毎年十一月又ハ十二月ニ於テ翌年度ノ收入支出豫算概算書ヲ編成ス

前項ノ收入支出豫算概算書ハ理事長及翌年度ノ理事ニ於テ各部ノ豫定經費要求書ヲ査定シタルモノニ就キ會長之ヲ決定ス

第二十條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フタメニ又ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルタメニ豫備費ヲ設ク

豫備費ハ收入豫算金額ノ百分ノ五以上十以内トス

第二十一條 第十九條ノ收入支出豫算概算書ハ之ヲ經常、臨時ノ二ニ分ツ經常支出豫算概算書ハ之ヲ理事費及各部費ニ區分ス

第二十二條 收入支出豫算ハ第十九條ノ收入支出豫算概算書ニ基キ

役員會之ヲ議決ス

第二十三條 物件ヲ購入、修繕又ハ營繕セムトスルトキハ理事又ハ各部委員ハ所定ノ請求簿ニ品目、數量、概算單價、概算價格、供給者又ハ請負者、其ノ他ノ所要事項ヲ記入シ理事長又ハ當該部長ノ檢印ヲ經テ事務員ニ差出スモノトス

事務員ハ前項ノ請求簿ヲ接受スルトキハ直ニ購入、修繕又ハ營繕ノ手續ヲナシ請求簿ニ價格、豫算殘額等ヲ記入シタル上之ヲ物件ト共ニ請求者ニ交付又ハ引渡スモノトス

第二十四條 他地方ニ出張ノ上支拂ヲ要スル費途ニ就キテハ前條第二項ニ拘ラス理事又ハ各部委員ニ對シ概算拂ヲナスコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事務員ハ理事又ハ各部委員ニ對シ受領者ノ領收證ヲ徵スルモノトス

前項ニ關スル他ノ手續ハ第二十三條ニ準ス

第二十五條 豫備費ヲ以テ補充スヘキ費途及豫備費ヲ以テ支辨スヘ

キ費途ノ金額ハ理事長及理事ノ意見ヲ聞キ會長之ヲ決定ス

前項ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第二十六條 理事長ハ各部ノ提出スル決算書ヲ審査シテ總決算報告

書ヲ調製シ翌年度ノ始ニ於テ之ヲ公表ス

第二十七條 各年度ノ收入ニ剩餘アルトキハ之ヲ翌年度ノ收入ニ繰
入ル

第二十八條 會長ハ各年度末ニ於テ事務員ニ對シ若干金額ノ報酬ヲ
ナスコトヲ得

第四章 役員會

第二十九條 會長ハ會務ニ關シ隨時役員會ヲ召集ス

役員會ハ事務員外ノ役員ヲ以テ之ヲ組織ス但翌年度ノ豫算ニ關ス
ル議事ニ就キテハ翌年度ノ理事及各部委員其ノ年度ノ理事及各部

委員ニ代ルモノトス

役員會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第三十條 役員會ハ役員總數ノ三分ノ二以上出席スルニアラサレハ
議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第三十一條 役員會ノ議事ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但本規則ノ改正
ハ出席役員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ議決ヲナスコ
トヲ得ス

前項本文ノ場合ニ於テ賛否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
附 則

第三十二條 第四條ノ各部ハ本會諸般ノ事情ヲ顧慮シ左ノ順序ニ依
リ漸次其ノ設置ヲ完成スルモノトス

- 一 庭球部
- 一 文藝部

一 陸上運動部
 一 野球部
 一 旅行部
 一 辯論部
 一 柔道部
 一 水泳部
 一 劍道部
 一 弓道部
 一 端艇部

第三十三條 通常會員ノ會費ハ第十四條第二項ノ規程ニ拘ラス當分ノ内在校三箇年分ヲ入學ノ學年中ニ於テ每學期授業料ト同時ニ分納スルモノトス

前項會費ノ分納額ハ左ノ如シ

第一學期分 金六圓
 第二學期分 金九圓
 第三學期分 金六圓

二 寮生規約

第一章 總則

第一條 吾人寮生ハ自治ノ精神ヲ以テ寄宿寮ニ關スル學則及細則ヲ格守シ校風發揚ノ中心タラムコトヲ期ス

第二條 吾人寮生ハ寮内ノ秩序ヲ整齊シ風紀ヲ肅正シ且衛生ニ留意シ特ニ清廉潔白ヲ旨トセムコトヲ期ス

第二章 寮友會

第三條 第一條及第二條ノ所期ニ基キ寄宿寮内ニ寮友會ヲ設ク

第四條 寮友會長ハ生徒課長ヲ推戴ス

第五條 寮友會ハ寮生全部ヨリ成ル

第六條 寮友會ニ炊事部、圖書部、運動部及庭園部ノ四部ヲ置ク

炊事部ハ食事及食堂、浴場、洗面所、理髮所、洗濯所其ノ他一般衛生ニ關スル事務ニ當ル

圖書部ハ圖書、新聞雜誌ノ購入、閱覽及寮歌ノ制定等ニ關スル事務ニ當ル

運動部ハ各種ノ運動、競技、旅行等ニ關スル事務ニ當ル

庭園部ハ庭園ニ關スル事務ニ當ル

第七條 寮友會員ノ親睦ヲ圖ラムカタメ、每學期一回全寮茶話會ヲ催ス

第八條 寮友會諸般ノ事務ハ委員之ヲ分擔シ寮總代之ヲ綜フ但寮總代中ノ二名ハ炊事部委員ヲ、他ノ二名ハ運動部委員ヲ、他ノ二名ハ圖

書部又ハ庭園部ノ一ヲ兼スルモノトス

第三章 會計

第九條 寮友會員ハ會費トシテ七月、八月ノ兩月ヲ除キ、毎月金壹圓ヲ食費ト共ニ納入スルモノトス

寮友會員ハ入會金トシテ入會ノ際金壹圓ヲ前項ノ會費ト共ニ納入スルモノトス

既納ノ會費及入會金ハ如何ナル事情アリトモ拂戻ヲ要求スルコトヲ得ス

第十條 收入金ハ信用アル銀行ノ預金トシテ之ヲ保管ス

第十一條 每學期ノ始ニ於テ其ノ學期ニ於ケル收入支出豫算概算書ヲ編成ス

前項ノ收入支出豫算概算書ハ各部委員其ノ原案ヲ作製シ更ニ總代ノ査定シタルモノニ就キ協議會之ヲ議決ス

第十二條 物件ヲ購入又ハ修繕セントスルトキハ各部委員ハ所定ノ用紙ニ所要事項ヲ記入シ其ノ部ノ委員ヲ兼ヌル寮總代ノ檢印ヲ經テ事務員ニ差出スモノトス

第四章 會員心得

第十三條 寮友會員ハ寮内ノ秩序風紀及衛生等ニ關シ左ノ諸號ヲ履行スルモノトス

- 一 毎朝洗面後ヨリ點檢時限マテハ制服又ハ袴ヲ着クルコト但室内ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 二 自習時間及就寢時限後ニ於テ音讀放歌雜談其ノ他總ヘテ喧噪ニ涉ル舉動ヲナサ、ルコト
- 三 室内ニ於テ歌骨牌樂器等ヲ弄ハサルコト
- 四 許可ナクシテ寮内備付ノ物品ヲ他ニ移動セサルコト
- 五 猥リニ他人ノ室ニ入ラサルコト

六 來訪者ニ對シテハ通學生タリトモ總ヘテ應接室ニ於テ面會スルコト

七 外出ノ際ハ寮務室玄關内ニ掲ケタル姓名札ヲ反シ歸寮ノ節之ヲ復スルコト

八 私ニ小使ヲ使役セサルコト

九 寮内ニ於テハ徒跣シ又ハ上草履ヲ使用スルコト上草履ヲ使用スルトキハ之ヲ下草履ト區別スルコト

十 指定外ノ場所ニ於テ食事ヲナサ、ルコト

十一 寮内ニ於テ飲酒セサルコト

十二 毎朝八時マテニ必ス其ノ居室ヲ掃除シ常ニ室内ノ整頓清潔ニ注意スルコト

十三 常ニ火ノ元ニ注意スルコト

十四 前各號ノ外秩序風紀ヲ紊リ衛生ニ悖ル虞アル言動ヲナサ、

ルコト

第十四條 寮友會員ハ炊事ニ關シ左ノ諸號ヲ履行スルモノトス

一 炊事委員ノ外直接賄方ニ交渉セサルコト

二 病氣ノタメ特別ノ食事ヲ要スルトキハ豫メ炊事委員ニ申出ツルコト

三 缺食セムトスルトキハ前日中ニ於テ炊事委員ニ申出ツルコト但三回以上連續缺食スルモノ、外ハ食費ヲ減セサルモノトス

四 食器ヲ毀損セサルコト

五 食費ハ必ス期間内ニ支拂フコト

第十五條 圖書運動庭園其ノ他ニ關スル心得方ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 協議會

第十六條 寮友會諸般ノ事項ヲ議セムカ爲メ毎月一回協議會ヲ開ク但急ヲ要スルトキハ臨時之ヲ開キ必要ナキトキハ之ヲ開カサルコト

トヲ得

第十七條 協議會ハ寮總代及委員ヲ以テ之ヲ組織ス但毎回會長ノ臨席ヲ乞フモノトス

第十八條 協議會ノ開會ハ之ニ先ツ二日前寮總代之ヲ揭示ス

第十九條 協議會ノ議案ハ豫メ會長ト協議スルモノトス

第二十條 寮友會員ハ協議會ノ議案ヲ提出スルコトヲ得但其ノ取捨ハ寮總代委員ト協議ノ上之ヲ定ム

第二十一條 協議會ノ議長ハ總代中ノ一名之ニ當ル

第二十二條 協議會ニ於テ決議ヲナス場合ニハ寮總代及委員總數ノ三分ノ二以上ノ出席アルヲ要ス

決議ハ過半數ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 協議會ノ決議ハ會長ノ承認ヲ得テ之ヲ施行ス

第六章 雜件

第二十四條 寮友會員ニシテ本規約ニ背キ寮生タルノ本分ニ戻ル者
 アルトキハ寮總代及委員ハ之ニ忠告ヲ加ヘ尙改メサルトキハ會長
 ニ具申スルモノトス

大正十一年七月一日印刷
 大正十一年七月八日發行

編纂 浦和高等學校

東京市麴町區飯田町二丁目二十七番地
 合資會社佐藤正三商店支配人

印刷者 岸本親章

東京市本郷區本郷四丁目三十九番地

印刷所 二原堂

283
40

終

